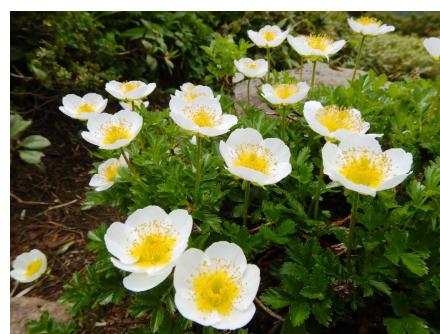




2024. 6 No. 99

- ・エゾシカによる農林業被害の軽減対策の推進（保全課）
- ・森林整備の効率化・省力化と林業の普及に向けて（網走南部森林管理署）
- ・こんにちは森林官です！（利尻森林事務所）
- ・センター通信（常呂川森林ふれあい推進センター）
- ・感謝状を贈呈（分収造林契約・国民の森林づくり）



林野庁



北海道森林管理局

エゾシカによる農林業被害の軽減対策の推進

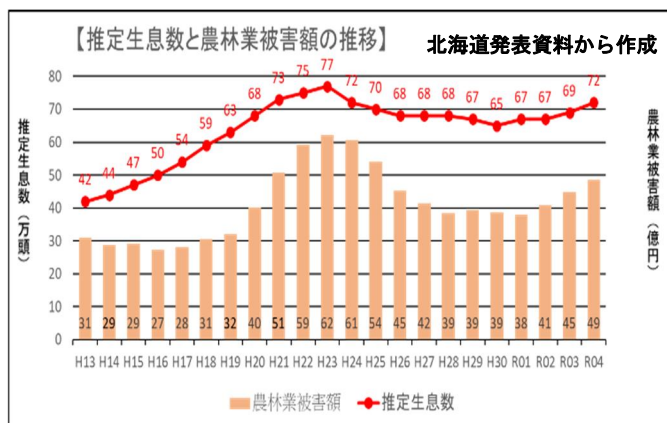
北海道森林管理局は、エゾシカによる農林業被害の軽減に向け、エゾシカの捕獲事業を実施するほか、自治体との連携による捕獲、狩猟者への対応に取り組んでいます。

計画保全部保全部課

【エゾシカによる被害の現状】

エゾシカは、推定生息数・農林業被害額ともにピークであった平成23年に近づきつつあるなど森林生態系への大きな影響が懸念されています。

令和4年度の推定生息数は、72万頭と増加傾向にあり、エゾシカによる農業被害額は、令和4年度は48.5億円で、令和3年度と比較して3.7億円増と毎年増加となっています。



全国的に見るとニホンシカによる森林への被害は、平成に入った頃から顕著となり、下草が採食されて表土がむき出しとなるなど、森林の持つ本来の機能に大きな影響を与え、深刻な状況となっています。

北海道においても、生息密度の高い地域では同様の状況がみられるとともに、線路内侵入や列車との衝突、車との交通事故は、右肩上がりに増加し、社会的な影響も生じるなど、捕獲等による対策が必要となっています。

【エゾシカ被害の実態把握】

北海道森林管理局では、平成21年度より全道各地に調査プロットを順次設置 (348プロット) し、エゾシカが森林生態系に与える影響を科学的かつ詳細に把握する調査「詳細影響調査」を行っています。

また、令和2年度から防護柵を設置した個所において、森林の回復状況などを確認するための経過観察も併せて行っています。

【森林づくりとしての捕獲事業】

エゾシカにより、森林の健全な育成への影響がみられることから、北海道森林管理局では、森林づくりの一環として森林整備事業によるエゾシカ捕獲を行っています。具体的な方法としては、囲いワナ、くくりワナのほか、林道を封鎖したうえで、餌による誘引とモバイルカリング (銃器による車両内外から発砲) などを行っています。



↑ モバイルカリング



↑ 囲いワナ

【市町村等との連携による捕獲】

エゾシカの越冬地は判っているものの、積雪等で駆除者が現地に行けないというケースも多く、そのような場合、自治体との協定により、森林管理署が除雪と餌による誘引を行い、自治体が捕獲

を実施する捕獲連携の取組を行っています。

また、北海道が推進期間を定め、各自治体が一斉捕獲に取り組む場合にも林道除雪の協力をするほか、市町村単独で行う有害鳥獣捕獲に際しては、フィールド提供やワナの貸出しなどの連携した取組を行っています。

【職員によるワナの設置】

狩猟者の高齢化など、捕獲者不足と言われる中、職員によるくくりワナ捕獲にも取り組んでいます。

この取組は、令和2年度から令和4年度まで宗谷森林管理署で実施され、合計53頭を捕獲しています。令和5年度は、稚内市の小学校周辺にクマの出没が相次いだため、中止としました。

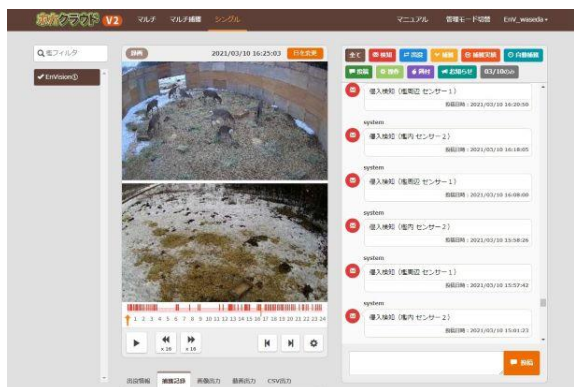


↑ くくりワナ

今年度も、くくりワナ捕獲実施を計画していますが、周辺地域の状況を見極めながら取り組んでいきます。

【情報通信技術の導入によるエゾシカ対策】

捕獲事業の実施にあたっては、省力化及び効率化のため、IOT自動撮影カメラを設置して捕獲状況の確認や、AIによるエゾシカ画像判別ソフトによる候補地選定、また、大型囲いワナではICT捕獲システムでの遠隔操作による頭数確認と捕獲を行っています。さらに、ジビエ活用が可能な地域においては、積極的に囲いワナによる生体捕獲を行っています。



↑ ICT 遠隔捕獲システム

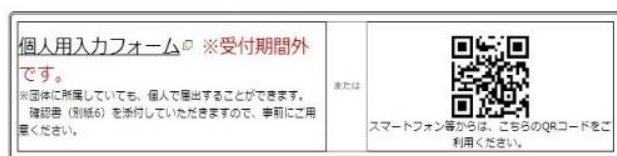
【狩猟について】

日本国内に広く生息するニホンジカは、7つの地域亜種が存在し、その一個体であるエゾシカ(オ

スの体重約130～150キログラム)は、他の亜種と比べて、かなりの大きさです。

エゾシカは、狩猟の対象として人気が高く、道外からも多くの狩猟者が北海道を訪れます。エゾシカの捕獲数は、令和3年度で約14万頭ですが、そのうち狩猟によるものは3.4万頭で、捕獲数のおおよそ4分の1を占めています。

狩猟のため国有林に入林する際は、事前手続きを必要としますが、狩猟がエゾシカによる被害軽減に寄与していることを踏まえ、北海道森林管理局での手続きの一元化と、従来の紙による手続きのほか、オンライン手続きも可能とするなど狩猟者の負担軽減にも努めています。



2.オンラインによる全道一括狩猟入林

↑ オンラインの入力フォーム (ホームページより)

受付後、届出代表者様へ確認メールなどを送

狩猟入林証等は、指定のサイトから全員分のPDF

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

【狩猟による事故防止に向けて】

一方、道内の可猟区は、一部猟区を除いて狩猟に関する管理を行わない、いわゆる「乱場」となっており、猟銃による事故も後を絶ちません。

国有林には、森林整備などの各種事業の実施や森林レクリエーションを楽しむなど、様々な目的で入林している方がいます。

猟銃による事故は、被害者、加害者ともに一生を左右することから、狩猟者向けの講座や安全の呼びかけ、入林が見込まれる区域の銃猟禁止区域や誤侵入防止のゲートなどの安全対策を行っています。

【おわりに】

今年度の重点取組事項として「森林病虫獣害への対策」を掲げています。ナラ枯れ病の拡大防止とエゾシカの森林への被害軽減に向け、今後も市町村等と連携した取組を進めます。

地域課題の解決に向けた取組

森林整備の効率化・省力化と林業の普及に向けて



網走南部森林管理署

【はじめに】

網走南部森林管理署は、オホーツク総合振興局管内の南東部、東側は知床半島、南側は阿寒湖、屈斜路湖、摩周湖に接する7市町にまたがる地域の国有林約13.6万haを管理しています。

管内国有林には、知床国立公園、阿寒摩周国立公園、網走国定公園があり、羅臼岳、斜里岳、藻琴山、小清水原生花園、神の子池、津別峠、美幌峠、知床峠などの風光明媚な観光地も数多くあります。また、知床半島地域は、世界自然遺産にも登録されています。

【地域の課題】

網走東部流域では民有林・国有林ともに本格的な利用期を迎えた人工林が数多く存在しており、今後再造林が必要な箇所も増加します。しかし、林業の担い手（特に造林）の確保は困難で、このままでは再造林実施への影響が懸念されます。

また、地域の民有林では、適切な森林管理の実現に向け、森林経営管理制度（新たな森林管理システム）の本格実施を進めていますが、市や町には林業の専門知識を有する職員が少ないという現状が地域の課題となっています。

【解決に向けた取組】

林業の担い手不足の対策として、森林整備での効率化・省力化は急務です。下刈を乗車型自走式刈払機やリモコン式刈払機で行い効率化を進める、コンテナ大苗を植栽することで下刈の回数を減らすなどの試行のほか、生長量や功程調査も行い、現地に最もあった効率的な方法を検討しています。

また、植栽時の苗木運搬は作業員の高齢化が進む中、負担となっています。ドローン運搬と人力

運搬との比較を行い、作業の省力化・軽労化についても検討しています。

検討・調査の経過は、オホーツク総合振興局や地元自治体などの関係機関へ情報提供しています。



リモコン式刈払機

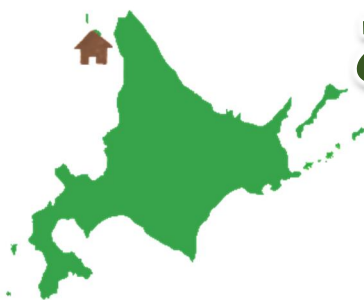
【今後に向けて】

今後は、これまでの功程調査を継続しながら、更なる下刈の省力化に向け、コンテナ苗の大苗の比較プロット、リモコン式草刈機による刈払箇所の生長量調査等を行っていきます。また、市や町の林業担当職員へのサポート目的とした勉強会などを、オホーツク総合振興局東部森林室と連携して計画しています。

最後に、当署では森林環境教育チーム「もりのめ」を立ち上げ、子供から大人まで様々な世代に森林・林業に興味を持ってもらえるような取組を進めています。この取組が、林業の担い手不足解消に少しでもつながればと考えています。



「もりのめ」振興局での勉強会



こんにちは 森林官です！

宗谷森林管理署 利尻森林事務所

森林官 坂本 淳也



【地域の概要】

利尻森林事務所は、利尻町及び利尻富士町の約12,000haの国有林を管理する利尻島唯一の森林事務所です。国有林の面積は森林面積の約85%であり、利尻島の面積のおよそ70%を占めています。



利尻山とオタトマリ沼

標高1,721mの独立峰、利尻山は利尻富士とも呼ばれ日本最北の百名山として知られています。また、固有種でもあるリシリヒナゲシを始めとした多くの花々が咲き誇り、夏には多くの登山者が訪れます。



リシリヒナゲシ



ボタンキンバイ



ミヤマオダマキ

【主な業務】

利尻森林事務所では森林整備事業の監督業務、境界管理、地林況調査等の現場業務のほかに、地元の中学校へ「林業体験学習」や、地元の漁協と「お魚殖やす植樹運動」を実施しています。

また、利尻山は年間約8,000人に上る登山者によるコース外への踏み込みや登山道の浸食によ

り、高山植物の生息域の侵食や、登山道の崩壊が進むなど、荒廃が進んでいます。

そこで利尻森林事務所では、非常勤の森林保護員であるグリーン・サポート・スタッフ（GSS）とともに、歩道や植生等の荒廃を防ぐため、国有林の巡視、マナー啓発、簡易な整備等の実施や、年3回、利尻町役場、利尻富士町役場、環境省等と連携し、地域と共同した合同登山道整備を行っています。



合同登山道整備

【最後に】

今年は利尻礼文サロベツ国立公園に指定されてから50周年を迎える節目の年でもあります。

改めて利尻島の国有林として何ができるのか考えながら、地域の皆様とともに利尻島の森林を守り続けていきたいと考えています。



お魚殖やす植樹運動



常呂川森林ふれあい推進センター

常呂川森林ふれあい推進センター（以下、常呂川センター）では、森林環境教育に携わる教育機関と連携した取組みや森林ボランティア団体の活動支援などを行っています。

今回は、令和5年度に当センターで実施したイベントの中から3つご紹介します。

【森林の魅（味）力を感じよう！】

5月28日、山野草を味わい森林の恵みを身近に感じてもらうことをテーマに、山菜採取での注意点や毒草の見分け方などの講話と「山菜しゃぶしゃぶ」の試食を行い、森林の魅力を感じてもらいました。



山野草で森林の魅力を体感する様子

【オホーツクの森・子ども探検隊】

7月29日、常呂川センターの活動の中心「オホーツクの森」で、子供たちに自然に親しんでもらうことをテーマに、森林ボランティア「オホーツクの会」との共催によるイベントを行いました。

午前は、一般公募で集まった小学生17名が3班に分かれ森の中にある5つの謎を解きながらゴールを目指し、午後は、好天のため涼しい場所に移動し、それぞれが思い思いの風景を小箱に詰め込むミニジオラマの作成に取り組みました。



森の中で謎解きゲームにチャレンジ

【森へおいでよ！パネル展】

9月1～10日の間、北見市緑のセンターで、オホーツク地域の森林の魅力をアピールするため、森林ボランティア「オホーツクの会」との共催によるパネル展に取り組みました。最後2日間は、木工クラフトコーナーを設置し、自然や木のぬくもりを感じてもらいました。



親子で木工クラフトを作る様子

【おわりに】

常呂川センターではこの他にも様々な業務に取り組んでいます。活動状況は、随時ホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

感謝状を贈呈（分収造林契約・国民の森林づくり）

北海道森林管理局では、分収造林契約を締結いただいた方や国有林における森林づくりや森林環境教育などに積極的に取り組まれるなど顕著な功績のあった個人又は団体に対し、感謝状をお贈りしています。令和6年度は「芦別市」と「社会福祉法人弥生福祉会あじさい保育園」に感謝状を贈呈しました。

【分収造林契約感謝状の贈呈式】

令和6年5月30日（木曜日）、北海道森林管理局において、地域における森林の有する多面的機能の持続・発揮への貢献を目的として、国有林の森林整備の推進にご賛同いただき、令和5年度に分収造林契約をご締結いただいた芦別市の荻原貢市長に北海道森林管理局長より木製感謝状を贈呈しました。



分収造林契約者感謝状受賞：芦別市

【国民の森林づくり感謝状の贈呈式】

令和6年5月20日（月曜日）、十勝西部森林管理署において、永年にわたり国見山自然観察教育林の景観及び環境保全にご協力いただいた社会福祉法人弥生福祉会あじさい保育園の松山久子園長に十勝西部森林管理署長より北海道森林管理局長名の木製感謝状を贈呈しました。



国民の森林づくり感謝状受賞：あじさい保育園



荻原芦別市長と記念撮影



松山園長との懇談

各地からの便り



「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

白老町の大浦木材株式会社で製材工場を見学



【胆振東部森林管理署】

5月9日に、白老町の大浦木材株式会社を職員9名が見学させていただきました。約2時間にわたり、敷地内土場・製材工場の案内や採材仕分け・製材方法・流通等の説明を受けました。製材工場では針葉樹を建築材に加工しており、主な製品は貫（ぬき：柱と柱を通す部材）、垂木（たるき：屋根を支える部材）、胴縁（どうぶち：壁を張るための部材）、間柱（まばしら：壁を作るため大きな柱と柱の間に立てる柱）とのことでした。

えりもワクワク森林づくり体験事業植樹祭



【日高南部森林管理署】

5月28日に、えりも町とえりも岬の緑を守る会主催の「えりもワクワク森林づくり体験事業植樹祭」が開催され、えりも町内の小学校高学年児童をはじめ関係機関、セブンイレブン記念財団等を含め218人が参加しました。北海道森林管理局からは吉村局長、高橋治山課長及び当署職員を合わせ延べ11名が参加しました。当署の宮崎治山技術官と長田技官からの植樹指導を受け、皆さんでカラマツ・ミズナラ600本を植樹しました。

空中消火資機材の組立訓練を実施



【留萌北部森林管理署】

5月22日に、留萌北部森林管理署、留萌南部森林管理署、北留萌消防組合消防署あわせて40名が参加し、本番を想定した空中消火資機材の組立訓練を実施しました。この訓練は、留萌流域において、万が一林野火災が発生し、市町村等から要請があった場合に、迅速かつ円滑な初動対応ができるよう、空中消火資機材を保管している当署の羽幌森林事務所にて毎年行っています。

弟子屈町春の名木ツアーを実施



【根釧西部森林管理署】

5月12日に、弟子屈町と根釧西部森林管理署の共催による春の名木ツアーを実施しました。このツアーは、平成18年に弟子屈町内の国有林や公園及び市街地に生育している巨樹や古木を「弟子屈町の名木」として町が指定したことがきっかけとなり、その翌年から始まったものです。新型コロナウイルスの影響により中止となった年もありましたが、毎年春と秋の年2回開催を継続しており、今年で18年目となりました。

広報 「北の森林 国有林」 6月号
発行 林野庁北海道森林管理局
編集 総務企画部 企画課

〒064-8537

札幌市中央区宮の森3条7丁目70

電話 011-622-5213

HP <https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>

【今月の花 チングルマ】

今月はチングルマの写真を表紙右下に掲載しました。花言葉は「可憐」です。

秋にはふわふわの綿毛が風に揺られる様子も素敵ですね。



今月の表紙